

初代会長 佐伯卓也先生のご逝去を悼んで

湊 三郎

昭和 43 年 10 月に発足した東北数学教育学会の世話人代表を昭和 64 年から平成 8 年までの間務められ、更に会長制となった平成 9 年に初代会長となり平成 15 年まで会長を務められた佐伯卓也先生が平成 23 年 3 月 6 日に逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

先生は昭和 4 年 9 月 30 日、宮城県亘理町に出生され、(旧制)第二高等学校にご入学、学制改革により東北大学教養部から理学部数学科を経て、東北大学大学院修士課程を昭和 30 年に終えられ、微分幾何学の泰斗佐々木重夫先生の助手になられました。J. Math. Soc. Japan (日本数学会) への論文掲載が契機となって岩手大学教育学部に赴任し、数学の学位取得を目指して研究に励んでおられた時に指導教官の東北大学教授が亡くなられるという事があり、数学教育へと研究分野を転換されました。東北大学理学部非常勤で「数学科教育法」を担当されたこともあります。広島大学教育学部からの誘いも断って岩手大学で停年を迎えられました。仙台に戻られた後は、山形大学や山形市内の複数の看護系学校で講師をされながら、研究を継続されました。本年報には平成 19 年 3 月発行の第 38 号まで論文が掲載されています。

「多数の学会に出て論文を書く」、「口頭発表は必ず印刷物にする」を自らに課し、年間 10 編を越える論文を出すとの決意をお聞きしたことがあります。多様な学会からの多彩な情報や数学教育研究への数学研究手法の適用は示唆的でしたが、研究分野として劣勢な数学教育研究に熱烈に取り組む数学研究の実績者のお姿勢を見て大いに勇気づけられたものです。

学生指導は極めて厳格でしたが、研究会には多数のお弟子さんが参加され、お弟子さんとの共同研究もあります。ご停年間の年度に非常勤講師のお招きをうけて岩手大学に参りました。講義のため控え室を出るとき、先生に「よろしく願います」と深々と頭を下げられ身震いしたことを思い出します。私の身震いは、先生の律儀さもさることながら深い教育愛で接しておられるお弟子さんの方々に講義をすることの重大性を感じたがためでした。

ご趣味の多彩さとその本格的なことは意外でした。奥様同伴の競技ダンスもその一つです。講演をお願いした淡中忠郎先生にお礼として自作曲のギター演奏をされたことがあります。

平成 21 年 11 月 3 日、瑞宝中綬賞の叙勲をうけ、奥様ご病気の故にお一人で皇居に向かわれました。翌年春の「桜を見る会」(新宿御苑、総理大臣主催)の案内はお断りなさいました。

この叙勲が「東北・北陸数学教育基礎的研究会の記録」の編集に私を向かわせ、「基礎研」初代会長でもある先生を顕彰するべく平成 22 年初頭に着手したのです。学会として最も大切にされておられた本学会の年報 42 号(2011,3,3-32)に、先生が心血を注がれた研究活動の一端を記録し得たことを慰めとしています(完成原稿はご覧頂きました)。

重ねて佐伯卓也先生のご冥福をお祈り致します。

(執筆に当たり、奥様照子様、長女光美様、及び本学会森川会長と大澤事務局長とにお礼申し上げます。)